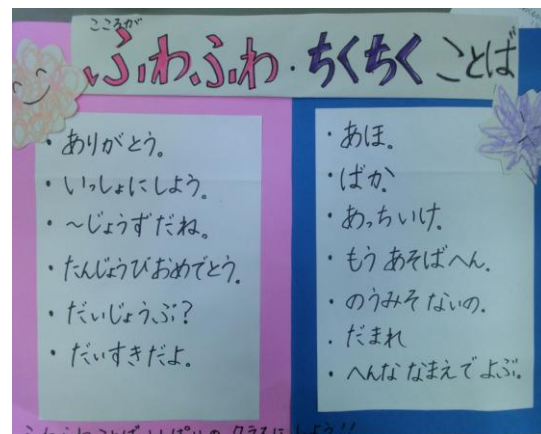


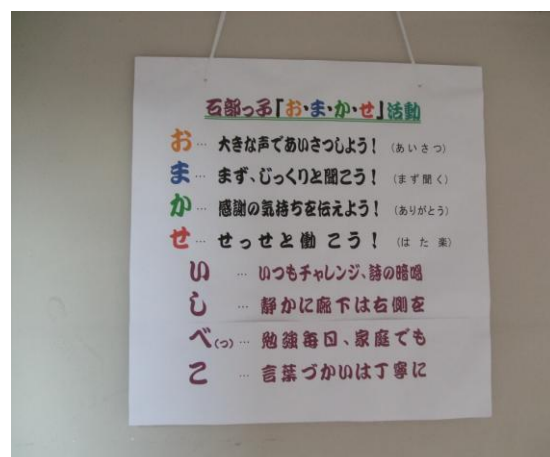
## (5) エンカウンター

子ども達のグループ作りや、友だちの気持ちを理解するために、エンカウンターに取り組んだ。「ふわふわ・チクチク言葉」の取り組みでは、子ども達から写真のような意見が出てきた。振り返りでは「今までチクチク言葉を使っていたけど、これからはふわふわ言葉を使いたい」という話になり、生活に生かしていこうとする積極的な姿勢が見られた。また、日常生活の中でも「これはチクチク言葉やで」などという声が聞かれるようになり、子ども達に浸透してきたのが感じられる。その活動だけで終わらない、継続的な取り組みが必要である。



## (6) おまかせ活動 合い言葉「おまかせ、いしべっこ」

本年度教育実践の重点である子どもたちの自尊感情の向上をめざし、言語感覚、規範意識、人権感覚を充実させるための合い言葉を設定した。合い言葉は目標を具現化するために、子どもたちに親しみやすく、わかりやすくした。また、合い言葉を廊下や教室に掲示し、子どもたちの生活の中にとけこませた。教室ではみんなで読み合う機会をもち意識化をした。課題としては、合い言葉を日々意識し取り組んでいく環境作りである。



## 2、自治力を高める活動

### (1) 児童集会

例年児童集会は、委員会活動の一環として、各委員会からのお知らせやよびかけなどを発信する場であった。しかし、このような内容では、児童のアイディアや自治力を育む上で限界を感じた。今年度、第一回目の委員会で運営委員会の児童たちに、これまでの枠にとらわれることなく、自分たちのアイディアから自分たちで創り上げる児童集会の内容を考えてみようかと問うてみた。すると、東日本大震災で被害に遭った地域や人々のために自分たちができることを探したいという提案があった。運営委員会の児童たちは、自分たちがリーダーシップをとりながら全校児童間の交流を図り、全校児童みんなで取り組む活動を望んでいた。話し合いを重ねた結果、色別活動の中で、上学年が下学年に作り方を教えながら鶴を折った。一人ひとりの東日本への思いをこ

